

第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

1 日時 平成29年8月7日(月) 午前10時～午前11時30分

2 場所 青梅市役所 205会議室

3 出席委員

森田委員、加藤委員、小澤委員、赤尾委員、徳武委員

4 議事

協議事項

(1) 平成28年度における青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の進ちよく状況について

(2) 地方創生加速化交付金(平成27年度補正予算)充当事業について

(配布資料)

資料1 平成28年度における主な総合戦略事業の進ちよく状況

資料2 地方創生加速化交付金充当事業実施実績

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>(開会)</p> <p>平成29年度の第1回目の懇談会を開催させていただく。</p> <p>ニュースでは、豪雨による被害報道されている。九州の北側は何度も豪雨に襲われ大雨の被害があり、この近辺でも神奈川でゲリラ豪雨の映像を見た。今の台風5号が関東地方にもくるという予報で心配をしている。</p> <p>青梅市でも昨年8月に台風の被害を受けて大変だった。</p> <p>被災地ではボランティアの方による支援の姿を、映像を通じて見ると共助ということを感じる。また、行政も総動員で手を尽くすことが必要となる。被害地域の方々も事前に準備はしていると思うが、想定をはるかに超える重大な被害が発生している。</p> <p>地方創生についても、市と民間が力を合わせて取り組んでいく重大な取組であると認識している。否応なしに人口は減少していくが、手を尽くすことによって、多少なりとも人口面でカバーし、その他の施策によって地域力が減退しないような青梅市できればと思っているので委員の皆さま方には是非ご協力いただきたい。</p> <p>確認となるが、当懇談会は「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に関するところを所管している。この総合戦略に関して、市の取組状況を聞き、委員の皆さま方の領域・分野からのご意見、あるいは日頃の生活の中で感じられたことなどを聞かせてもらい、青梅市がより良い形で進んでいけるような懇談会にしたい。</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 平成28年度における青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の進捗よく状況について</p>
事務局	<p>(進め方について事務局から説明)</p> <p>個別の内容の説明に入る前に、進め方について説明をする。</p> <p>青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、2060年の人口の将来展望のもとに、青梅市のみならず日本が直面している人口減少や少子高齢化に対し、その抑制と地域経済の持続的発展を果たしていくため、3つの基本目標を掲げた。</p> <p>この目標の達成に向けて、子育て支援策や産業振興策を重点として現在取組を進めている。</p> <p>委員の皆さま方には、この基本目標の達成に向けて、取り組んでいる各事業に関し、その進捗よく状況を報告する。</p> <p>また、基本目標の進捗よくを図るひとつの物差しとして、重要業績評価指標いわゆるKPIについても、最新の実績数値をお示ししている。</p> <p>これらを総括的に確認し、個別の事業に対する意見や質問、また、基本目標の達成に向けて青梅市が取り組むべき手立てなど様々な角度からご意見をいただきたいと考えている。</p>

会長	<p>事務局から総合戦略に掲げている事業の中から主な取組をピックアップして基本目標ごとにまとめた資料を用いて説明がある。</p> <p>分野が多岐にわたっているため、基本目標ごとに区切って説明をしてもらい、その後皆さまからご意見やご質問などを伺ってまいりたい。</p>
事務局	資料1-1を用いて、基本目標1について説明
会長	それでは、基本目標1についてご発言をお願いしたい。
委員	<p>重要業績評価指標で、学童保育所待機児童数や保育所待機児童数について、最初からあきらめて申請をしていない方もいるのではないかと思うが、現状の人数は本人が申請したが入所できなかった人数という理解でよいか。</p> <p>学童保育所待機児童数は改善傾向にあるが、私の職場には、入所できなかった者が2名いる。聞いてみると、自分の地域の学童保育所に預けたいが一杯で、空いている所は遠いところになってしまう。希望者が多いところにそれなりの定員数が確保されているなどバランスはとれているのか。</p>
子ども家庭部長	<p>待機児童数は、申請に対するものであり、申請をあきらめているような隠れ待機児童の把握はできていない。</p> <p>全体のバランスということについては、東部地域で多くの待機児童が発生していることから、施設の確保を進めていきたいと考えている。この他の課題として、現在経過措置としているが、国の面積基準に合わせていくことが必要であり、そうすると定員数は減少する。その兼ね合いを考えながら学校教室を借りて施設整備を進めていきたい。</p>
委員	調べてみると20程学童保育所があるが、バランスを見ながら、これをさらに増やしていきたいということによいか。
子ども家庭部長	各学校や学校外もあるが、その教室数を増やしていくという考え方である。
委員	学童保育所の待機児童は、現在どのようにして過ごしているのかを今後調べてはどうか。国の基準などがある中で、すぐに建てることは難しいと思うので、待機となってしまった方をどのようにサポートするか、個別のサポートができるかなど救いの手立てが考えられるのではないか。
子ども家庭部	今後、考慮していきたい。子育てひろばに取り組んでおり、東部地域の東青梅

長	市民センター、河辺市民センターの2か所で整備した。こういった施策も子どもの居場所として一助になると考えている。
会長	<p>青梅の場合、全体のバランスをとることが難しいと思う。東部地区は待機児童が比較的多く、それをカバーする保育施設が十分ではない。それを手当てするにも学校施設自体に余裕がない。一方で西部は空いているかもしれないが、そこに行くことは難しい。何か施設整備以前にできることがあるのかどうか調査してみしてほしい。</p> <p>合計特殊出生率の結果はショックを受けた。これも育児パッケージといった施策をしていてもすぐに効果を得ることは難しい。</p>
委員	育児パッケージの評価はどのような状況か。
事務局	アンケート調査などを実施したわけではないが、SNSでは喜ばれている内容の発信があった。
委員	発信してもらえることは良い。
委員	育児パッケージは、新生児に必要なものをそろえていると思うが、自己申請なのかそれとも出生届けが出ると自動的に届くものなのか。申請が伴う場合、PRが必要となる。
事務局	妊娠された方は母子手帳を発行することになるため、その機会を捉えて把握し、手続きをしている。
委員	基本的には漏れがないという理解でよいか。
事務局	少なくとも母子手帳を発行されない方はほぼいないと思いますので、基本的には漏れがないという理解である。
会長	100%行き渡っているのか。辞退する方もいるのか。
事務局	希望されない方もいると聞いており、100%行き渡っているわけではない。
会長	放課後子ども教室の約22,000人というのは、どのように評価しているか。
教育部長	実施校を11校に拡大し、実施回数は537回になる。全体の回数も伸びており、これに対して約22,000人の参加ということでは、多くの方に参加いただけていると捉

	<p>えている。</p>
事務局	<p>資料1-2を用いて、基本目標2について説明。</p>
会長	<p>基本目標2についてご発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>昨今の青梅市の状況をみると、老舗のお菓子屋や文具店が閉店したり、大きな企業が撤退するということで、出ていくのが多くて入ってくるところがない。企業誘致の実績がなく、青梅市としては起爆剤として企業誘致は大きな効果が得られると考える。税収が得られ、雇用が確保できる。雇用が確保できることによって住人が増えるということで、好循環を生む。</p> <p>企業誘致に関してどのような取組をしてきたのか、また、今後どのようなことをやっていかなければならないのか、対応策を講じているようであれば聞きたい。</p>
まちづくり経済 部長	<p>企業誘致については、効果的なパンフレットを作成し継続的に誘致活動に取り組んできた。結果誘致に結びつく結果が出なかった。中小企業等、今後の青梅市をけん引できる、全国・世界に展開できるような企業の誘致について努めていきたい。</p>
会長	<p>企業誘致条例に見合う企業誘致はなかったという事だとする、魅力がないということになる。</p>
委員	<p>圏央道が東北道と接続し、物流とすれば都内を経由しないでいいルートができた。インターが近く、土地があるということで、これほど魅力のあるところは他にない。それでも来ないということは、来たいと思う企業のニーズに見合っていないということも考えられる。</p>
会長	<p>圏央道の交通量が大変増えている。</p> <p>企業の誘致実績がないというのはさびしいことだ。</p>
まちづくり経済 部長	<p>実際、圏央道周辺を中心として企業等からの相談はある。</p> <p>企業が希望する土地の規模、価格等においては課題があり、マッチングがうまくできていない。</p> <p>一方では、企業誘致条例の枠組みの中では企業の立地が実績としてはないが、大手企業の撤退に伴う跡地では物流倉庫の整備が予定されている。</p> <p>あるいは、市の方でも青梅インター北側の物流拠点の整備に向けて現在進めている中では、様々な企業の情報は聞いている。</p> <p>相乗効果なども含め、市としてPRし土地の確保に向けて対応していきたい。</p>

委員	条例の枠組み外で、福祉施設や中小規模の企業が参入してきたなどの動向があれば聞きたい。
まちづくり経済 部長	福祉施設については、これまでの立地状況なども踏まえて新規の整備はない。中小企業では工業団地での実績はある。
委員	埼玉に工場を整備した方の話によれば、東京都と埼玉県とでは最低賃金の違いがあり、埼玉県の方が有利であり人も集めやすいということであった。
委員	確かに東京都の最低賃金は935円ということで、一番高い。 事業がないのは課題であり、通過点になってしまっている。
会長	まちの活性化に向けては、企業誘致すれば従業員、家族など色々な面でプラスになる。
委員	大きな企業があると企業城下町と言っていてその効果が大きい反面、それがなくなってしまう時の影響も大きい。それに頼らない形で、企業と行政とが共存する形でやっていけるといいし、市の受け入れ体制が整っていると他の自治体よりも魅力が高まる。
会長	梅の里は、計画的に進んでいるという理解でよいか。
まちづくり経済 部長	平成27年度から強化対策を実施している。年3回の調査および感染樹の即時伐採、アブラムシの防除ということを徹底してきた。その結果、国の方から一部地域について再植栽が認められた。今後も継続的に強化対策を実施している。そういったことで再植栽に向けての作業は順調に進んでいるという認識である。
会長	手をかけていかなければならないと思うので、今後も強力をお願いしたい。
事務局	資料1-3用いて、基本目標3について説明。
会長	基本目標3についてご発言をお願いしたい。
委員	KPIについてJRの利用があるが、利用が維持されていることが読み取れるが、青梅はバスが必要な地域だと思うが、コミュニティバスがない。高齢者の足の確保は課題だと思う。

まちづくり経済部	<p>いわゆるコミュニティバスは青梅市において運行をしていない。基幹的な公共交通手段としてバスがあり、現在主に3事業者が運行している。路線的に広域的な部分もあり、年間で1億3千万円を超える公共負担をして支援をしている状況。そういった中で、過去にコミュニティバスの導入について検討したが、需要と供給、市域の広範な部分での運行という事を踏まえると、かなり高額な赤字に対する負担が生じる。そういった面を総合的に判断したうえで、現在のバス路線を効率的・効果的に維持していこうということで公共交通を担っている。</p>
会長	<p>地域柄や人口比がある。バス業者も黒字であれば競争の原理で参入もあると思うが、赤字では難しい。</p>
委員	<p>青梅においては将来的に発展が期待できる分野がカヌーだと思う。先日テレビでは、カヌーではなくビート板のようなもので川下りをするのが新たなスポーツとして取り組まれている。スポーツの場としての有効活用は他のところに真似ができない分野だと思う。</p>
委員	<p>市民会館の建設事業とあり、市役所西側の土地がその候補としてなっていると思うが、個人的にはこの一等地にあって緑が豊かな点は魅力的であると感じている。そこに施設を建設するに当たっては、駐車場の確保が重要となるので、その点は配慮してもらいたい。</p>
企画部長	<p>市役所西側のいわゆるケミコン跡地の利活用については、内部での検討委員会での検討や市議会の特別委員会でもキャッチボールをしながら進めている。今年度中に構想を策定するわけだが、様々な業種業態の企業にアンケート調査を行っている。また、市民からも意見を聴きながらどのような機能を持った施設とするかを検討し、それに合わせて必要台数が変わってくると思うが、駐車場の確保は必須のことと捉えている。</p>
委員	<p>東京都環境局が自然公園プランというものを考えていて、自然公園というのは、人工的に整備されたものではなく、青梅・奥多摩のような自然豊かな場所を一つの公園という概念で見て、そういった言葉を使うことで都民にイメージ付けをしていくと。私は、青梅・奥多摩の住民にとってどういう街にしていくかということが重要。青梅に住んでいる人のためにどうするかという視点は重要だが、都民にとってどういった街にするかということが発展のためのキーになる。</p> <p>都市部はマンション住民が多いが、休日などにマンションに一日いられないという感覚があるようだ。結局、身近な自然に触れ合うような癒しを求める。結果、昭和記念公園は恰好な場所となっている。青梅も都民にとって公園的なイメージを作ると、もう少し明確にいい所という印象を伝えられ、結果青梅市民にとって誇るべ</p>

	<p>き街につながっていくと思う。</p>
会長	<p>東京にこんな自然に恵まれた良いところはない。 ほかにご意見などはよろしいか。</p>
	<p>(2) 地方創生加速化交付金充当事業について</p>
事務局	<p>資料2-1・2-2を用いて説明。</p>
会長	<p>全国の自治体で、総合戦略を掲げて地方創生に取り組んでいるところだが、国では自治体が行う事業の先進性や自立性を考慮して交付金の配分を決めている。</p> <p>青梅市では、資料にある2つのプロジェクトに取り組んできているが、これらについて、ご発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>とても優れたガイドであり、Ome Blueは印象的な色である。予算には限りがあると思うが、WEB版の用意はあるか。また、英語版でかつWEB版があると検索した際に世界で閲覧されることを考えると、オリンピック・パラリンピックに向けて、また、ホストタウンしても必要だと感じる。</p>
商工観光課長	<p>これまでは地図を中心としたガイドであったが、個店の紹介も含めた形で、点から線、面へと広がっていけるように作成を進めた。英語版についてはすでに紙媒体で作成をしている。空港や主要駅などの観光案内所で配布をしている。</p> <p>発信方法としては、SNSの活用ということでOmeBlueをコンセプトとしたFaceBookを立ち上げた。今後はInstagramやTwitterなども展開していきたい。ドイツのホストタウンとしては、大使館を通じて取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>レトロな街並みを見たいと思う外国人も多いので、ガイドの内容はとても良い。</p>
委員	<p>青梅では、観光客を増やすための方策としてイベントをやっている。しかし、御岳山は御岳山、塩船観音は塩船観音でイベントをやっている。それが連携・協力してできると、最低でも情報の共有や共同発信すると、さらに青梅としてのエネルギーを強く打ち出せる。大多摩観光連盟はそういった趣旨だと思うが範囲が広すぎる。市内の観光業、観光施設が集まり、協力体制を構築してみてもどうかと思う。</p>
商工観光課長	<p>市内には3つの観光協会があり、さらに青梅市観光協会があるという状況で、それぞれの観光協会イベントを行ってきている。そういった中で、協力体制を構築</p>

	<p>するため、プロジェクトの委員会を立ち上げた。</p> <p>また、ツアー会社と協力して6月に約40名のツアーを設定した。御岳山の上での観光に加えて、しょうぶ園や塩船観音を周ったところ大変好評であった。8月にも再度実施する予定である。</p>
委員	<p>青梅市公式キャラクターは篠原ともえさんのデザインだと聞いたが、これの活用方法について考えはあるか。</p>
企画部長	<p>現在バッチを作成し、梅の里の再生にご支援をいただいた方に差し上げた。また、名前が決定したところであるので、ホームページ等でPRしている。固く考えずに、どのような方法ができるか検討を進めている。</p>
会長	<p>ひとつのPRの方法としてイベントという方法がある。しかし開催時期に偏りがある。イベントを1年中つなげて、青梅に行くとか何かしら見ごたえのあるものがあるといったつながりがあるといいのではないか。</p> <p>空き店舗の関係は市内であればどこでも対象となる。</p>
委員	<p>これは創業支援センターと空き店舗とをマッチングしている取組でよいか。</p> <p>お互いのニーズが有効活用につながっていくといい。</p>
会長	<p>センターでの創業研修、資金支援、空き店舗の情報も共有されている。</p>
委員	<p>観光大使という存在があるが、作家の浅田次郎さんの親せきが青梅市と縁があるようで、浅田次郎さんをお願いしてはどうか。</p> <p>金融機関の支店長がその街の観光大使になっているという話を聞いたこともある。そういった方でも、希望があれば観光大使になる仕組みがある。</p>
委員	<p>静岡県下田市の観光大使に、地元のハローワークの所長がなっている。</p> <p>名刺には観光大使と入っている。</p>
会長	<p>青梅市には固い取り決めはあるのか。</p>
企画部長	<p>青梅市にゆかりのある方を選定している。</p>
会長	<p>それでは、協議事項はこれで終了とする。事務局の方で、それぞれの意見について事業を進めていく中で勘案し、戦略的なまちづくりに取り組んでほしい。</p> <p>その他として事務局から何かあれば。</p>

事務局	年度内にもう1度開催する。
会長	以上で本日の議事はすべて終了した。 以上をもって、第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とする。 (閉会)